



(写真左) 市議会議員の皆さんもまつりを盛り上げてくださいました。



(写真下) 昨年7月に発足した女性消防隊の皆さんが駆けつけてくださいました。敬礼！

(写真上) 今年も関西から帰郷して参加くださいました。

(写真右) 小学生もお囃子で盛り上げます。かわいい！

(写真下) 迫力のあるよさこいには多くの人が拍手喝采でした。



(写真上) 商店街ステージでは鹿児島県住みます芸人の突撃パインアップルさんが会場を沸かせてくれました。

(写真左) 竹灯籠で彩られ、前夜祭会場の宝満寺は幻想的な雰囲気になりました。

(写真下) まつりの会場は、多くの人で賑わいました。



(写真上) 約800人が参加した踊り連。様々な衣装と踊りで楽しませてくださいました。

(写真右) きりっ！と凛々しくパレードを先導した志武士ししまるくん。

(写真下) 踊り連コンテストで優勝したアロハ ルミコ スタジオの見事なダンスに会場は大盛り上がり。



# お釈迦まつり

4月28日と29日、伝統のお釈迦まつりが開催され、多数の来場者で賑わいました。



県の三大まつりのひとつに数えられる

## 「お釈迦まつり」とは…

お釈迦まつりは、仏教を開いたお釈迦様が誕生した4月8日を祝う行事です。正式には灌仏会といわれ、仏教の寺院では盛大にお祭りが行われます。また、仏生会や降誕祭、花祭りとも呼ばれています。お祭りでは、お釈迦様の誕生直後の姿といわれる誕生仏の像に甘茶をかけて洗い清めます。この風習は、もともと、香水（仏様に供える水）をかけていたものが、江戸時代の頃からは甘茶をかけるように代わったものです。

志布志では、奈良時代の創建と伝えられ、観音菩薩を祭ることから「おかんのんさあ」と呼ばれる宝満寺を中心にお祭りが開催され、「しがつようか（4月8日）」が訛り「しがつじよか」と呼ばれています。古くは江戸時代から、まちを挙げて盛大に祝われていたようにです。

明治時代になると、仏教よりも日本古来の神が正しいとする考えが広まり、寺院や仏像を壊して捨てる「廃仏毀釈」が行われました。そのため、宝満寺をはじめ志布志のすべての寺院が破壊され、10年間に渡り僧侶が一人もいない時期

がありました。その期間でさえ、住民の観音様に対する信仰心が絶えることはありませんでした。それから宝満寺の円道和尚は亡くなり、お寺は途絶えてしまいました。したが、円道和尚と親交のあった大慈寺の柏州和尚は、伝統ある宝満寺の廃絶を残念に思い、明治19年に宝満寺跡に仮のお堂を建て、新しく観音像を招いて、お釈迦まつりを再興しました。

その後、立派なお堂を建てようとして募金活動が展開されました。住民からの多くの寄付が集まり、昭和10年には旧宝満寺の境内に現在の観音堂が建てられ、今のようなおまつりの形になりました。

おまつりでは花嫁を馬の背に乗せ花婿が手綱を引くシャンシャン馬の行列が行われます。現在も華やかに行われているこの風習は昔からのもので、当時から若夫婦が安産祈願に訪れていたようです。

お釈迦まつりは鹿児島県の三大祭のひとつに数えられ、昔は旧暦4月8日に行われていましたが、5月5日のこどもの日に変わり、現在は4月29日の昭和の日に変わっています。